留学生センターにおける日本語補講授業とプレースメントテスト運営の現状と改善

吉田　睦　　酒井　たか子　　小林　典子

要　旨

筑波大学留学生センターでは、毎学期の始めに新規・継続受講留学生を対象に受講登録を行なっている。しかし多数の留学生に対し、手続きを組織的に行い、効率的な対応を目指すことは未だ難しい課題となっている。本稿では留学生センターにおける日本語補講授業、プレースメントテスト運営のための受講手続きを分析し、その課題と改善点を考察した。その結果、全 14 の運営過程において大きく「新規・継続受講留学生受付」と「プレースメントテスト採点作業」にウェイト（重要度）が置かれていることが明らかとなり、多数の留学生が在籍する日本語教育機関における受講登録、学生管理を調査した一事例として、運営・管理面に着目し改善点を提案した。
【キーワード】受講手続き　プレースメントテスト　留学生の多様化　運営・管理

A Study on Improvement of Administration of Supplemental Japanese Language Courses and the Placement Test at the International Student Center

YOSHIDA Mutsumi, SAKAI Takako, KOBAYASHI Noriko

【Abstract】The International Student Center, University of Tsukuba, manages registration of course for new students and renewal students at the beginning of trimester. Systematizing registration and performing effective service has been a heavy administrative load for management. In this study, authors analyzed the registration system for supplemental Japanese language courses and the accompanying placement test, and discussed issues and improvement strategies. The result shows that the system emphasized 'new and renewal registration' and 'scoring of placement test' across all 14 steps extracted. Improvement strategies are proposed based on a case which investigated course registration and administration of a large number of students in a Japanese language institution.
【Keywords】registration, placement test, multiplicity of foreign student, management and administration

1.　はじめに

現在、筑波大学には約1200名の外国人留学生が在籍しており、その約4分の1の学生が筑波大学留学生センター開設の日本語補講授業を受講している。日本語補講授業では留学生それぞれの能力に応じた授業を実施するため、3学期制の学期毎に新規受講留学生、継続受講留学生の両者を対象として受講登録を行なっている。初めて授業を受講する新規受講留学生は、当センターにて個人情報の登録とともに日本語補講クラス決定のためのプレースメントテスト受験手続きを行なう。また、これまで授業を受講してきた継続受講留学生も約3,4ヶ月ごとにレベルを確認し、次期受講の申請が必要となる。そのため各学期の日本語補講授業開始にむけて、受講手続きの期間には、新規受講留学生、継続受講留学生両者を合わせ、多くの留学生が登録に足を運んでいる。

しかし毎回の受付手続きを組織化し、効率的な運営を目指していくことは、作業の運営上容易とはいえない。個々の留学生の日本語学習の状態を把握し適切に対応することは、留学生数の多い留学生センターにとって、現在も困難な手続きとなっている。

そこで本稿では、留学生センターにおける日本語補講授業及びプレースメントテスト運営のための受講手続きを分析し、その課題と改善点について考察する。また多数の留学生が在籍する日本語教育機関において授業受講登録、学生管理を調査した一事例として、日本語教育における学生管理、運営面のあり方を見直していく。

2.　受講者の背景

留学生センターでは大学に在籍する留学生等に対し、各々の日本語能力に応じた授業を開設している。日本語コースには、本学の大学に配置される国費留学生、教員研修留学生、日韓共同理工系学部留学生、日本語･日本文化研修留学生等を対象とする「集中日本語コース」及び「半集中日本語コース」と、本学の留学生等を対象とする各学期10週間の日本語補講授業である「初級日本語コース」及び中級以上の「技能別クラス」が開講されている（表1)。受講資格としては、(1) 正規の学生（学群、大学院）(2) 研究生（教員研修留学生を含む）(3) 特別聴講学生、特別研究学生　(4) 日本語研修生（日韓共同理工系学部留学生を含む）(5) 本学の日本語･日本文化研修留学生　(6) 本学の帰国子女学生　(7) その他留学生センター長が適当と認める者であり、これらのうち該当する留学生を対象に、日本語補講授業を受講するための受講手続きが行なわれている。手続きは各学期の初週に行われ、授業実施期間は以下の通りである。

【授業実施期間】

1学期　4月中旬～6月下旬　　10週間

2学期　9月中旬～11月下旬　　10週間

3学期　12月上旬～3月上旬　　10週間

また研究留学生および短期留学生は、プレースメントテストの結果によりレベル判定を受け、日本語能力に応じたクラスに配置される。ここでの日本語能力判定は、SPOT（Simple Performance-Oriented Test）などを使用したオリジナルテストである、筑波プレースメントテストを用い、実際の日本語運用力、コミュニケーション能力によって該当クラスが判定される。初級レベルの受講生は、初級日本語コース J100 ～ J400（週５コマ必修）と選択漢字クラス（週１コマ）のうち、合わせて週６コマが履修可能となる。

表１　2007（平成 19）年度日本語コース概要（筑波大学留学生センター、2007）

2007（平成19）年度日本語コース概要

コース名	クラス	レベル	コマ数	対　象	主教材・内容	開講時期
日本語集中コース	春季クラス	初級前期	週20コマ×11週	予備教育生	『SFJ』vol.1～vol.2	4月～6月
	夏季クラス	初級後期	週20コマ×4週	予備教育生	『SFJ』vol.3	7月
	秋季クラス	初級前期	週20コマ×8週	予備/教員研修	『SFJ』vol.1～vol.2	10月～12月
	冬季クラス	初級後期	週20コマ×7週	予備/教員研修	『SFJ』vol.2～vol.3	1月～2月
日本語半集中コース	春季クラス	初級後期	週10コマ×11週	予備教育生	『SFJ』vol.2～vol.3	4月～6月
	夏季クラス	中級前期	週10コマ×4週	予備教育生	中級教材	7月
	秋季クラス	初級後期	週10コマ×8週	予備/日韓/日研	『SFJ』vol.2～vol.3	10月～12月
	冬季クラス	中　級	週10コマ×7週	予備/日韓/日研	中級教材	1月～2月
初級日本語コース	J100	ゼロ初級	週4コマ×10週	その他の留学生	『SFJ』vol.1(L1-6)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	J200	初級前期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.1(L7-12)	同上
	J300	初級中期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.2(L13-20)	同上
	J400	初級後期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.2(L21-24)	同上
選択漢字クラス	K100	漢字入門	週1コマ×10週		『BKB』vol.1(L1-8)	同上
	K200	100～150字	週1コマ×10週		『BKB』vol.1(L9-15)	同上
	K300	150～250字	週1コマ×10週		『BKB』vol.1(L16-22)	同上
	K400	250～350字	週1コマ×10週		『BKB』vol.2(L23-35)	同上
	K500	350～500字	週1コマ×10週		『BKB』vol.2(L36-45)	同上
	K600	600～800字	週1コマ×10週		『IKB』vol.1(L1-5)	同上
	K700	800～1000字	週1コマ×10週		『IKB』vol.1(L6-10)	同上
中上級技能別クラス	レベルJ500	中級前期	各週1コマ×10週		6科目（「開設授業科目一覧」を参照）	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	レベルJ600	中級後期	各週1コマ×10週		6科目（「開設授業科目一覧」を参照）	同上
	レベルJ700	上級	各週1コマ×10週		7科目（「開設授業科目一覧」を参照）	同上

［主な使用教材］『SFJ』=Situational Functional Japanese　vol.1～vol.3（凡人社）
『BKB』=Basic Kanji Book　vol.1, vol.2（凡人社）
『IKB』=Intermediate Kanji Book　vol.1, vol.2（凡人社）
その他、『わくわく文法リスニング』（凡人社）など

中級以上の技能別日本語クラスでは、 J500レベルは中級前期、J600レベルは中級後期、J700は上級レベルの学生を対象としている。J500レベル、J600レベルでは「文法」のクラスに加え「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」ことを中心としたクラスが技能別に開講されている。また上級のJ700レベルでは「文法」「話す･聞く」「読む･書く」「漢字語彙」「情報処理の日本語」と、より高度で応用的な授業が設けられている。初級日本語コースを終えた留学生は、これらのうちそれぞれの日本語能力に該当するレベルを週6コマまで選択し、受講することができる。

このように各留学生に対応した細かなレベル設定を行うにあたり、受講に際しては、毎学期に受講手続きを行うことが必要となる。しかし多くの留学生が、「自分の留学生身分が分からない」、「前回の受講レベルを覚えていない」、「長期間受講していなかった」など手続き上の諸問題を抱えており、複雑な受付手続きのなか留学生一人ひとりに丁寧に対応していかなければならないという問題点が生じている。学生数の多い当留学生センターにおいては一度に200名以上の留学生が手続きを行う場合もあり、個々の留学生に対応しながら、受講手続きをどのように効率的に運営していくかが課題となっている。

3.　受講手続きの運営

3.1　対象

本稿では2007年度2学期に行われた受講手続きを対象に、留学生センターにおける日本語補講授業受付及びプレースメントテスト受験に関する運営の現状を調査した。他学期の受付作業と比較し、2007年度2学期の受講手続きの特徴は、以下のように挙げられる。

〈留学生〉

・2学期の授業は9月開始であり、他学期に比べ日本に来たばかりの新規受講留学生が多い。（新規受講留学生　約200名、継続受講留学生　約180名）

・1年間の留学プログラムである短期交換留学生が多いため、来日経験・日本語学習経験の浅い留学生が多い。

〈運営面〉

・J500クラス以上の学生が受験を希望できるレベルアップテストが、受付期間とは別日実施となった。（以前までは受付期間と同日実施）

・プレースメントテストが日本語能力別に、午前・午後の二部制となった。

このように2007年度2学期の受付作業では、新規受講留学生の数が他学期よりも多いこと、来日経験・日本語学習経験の浅い学生が多く受講することなどから、受付作業開始以前より、個々の留学生の対応に時間がかかることが予想された。また運営面においても日本語補講授業のカリキュラム変動や受講する留学生の傾向に応じて、前学期の受付作業との変更点が見られた。

3. 2　運営内容

次に 2007 年度 2 学期受講手続きの具体的な運営内容について示す。長期間の準備を要し、様々な作業を同時に行う受講手続きの全体像を概観するため、時期や作業過程を視覚的に示すガントチャート、パートチャート（Gantt chart, PART chart）を使用し表した。両チャートは、多くの分野で組織的な問題点を明らかにする際に用いられ、進捗管理を示す有効な方法として知られている。そこでこのような複雑な受付作業の改善点を把握するにあたり、作業内容の流れを図式化することで分析を進める。

以下は日本語補講授業受講手続き及びそれに伴うプレースメントテスト受験手続きの運営概要を時系列の線表としてガントチャート（Gantt chart）に示したものである（図 1）。

2007 年度 2 学期日本語補講授業受講手続きの運営は 2007 年 8 月半ばより開始し、9 月半ばに終了した。図 1 では主な運営内容である 14 の過程が示されており、同日に並行して行われた作業が読み取れる。

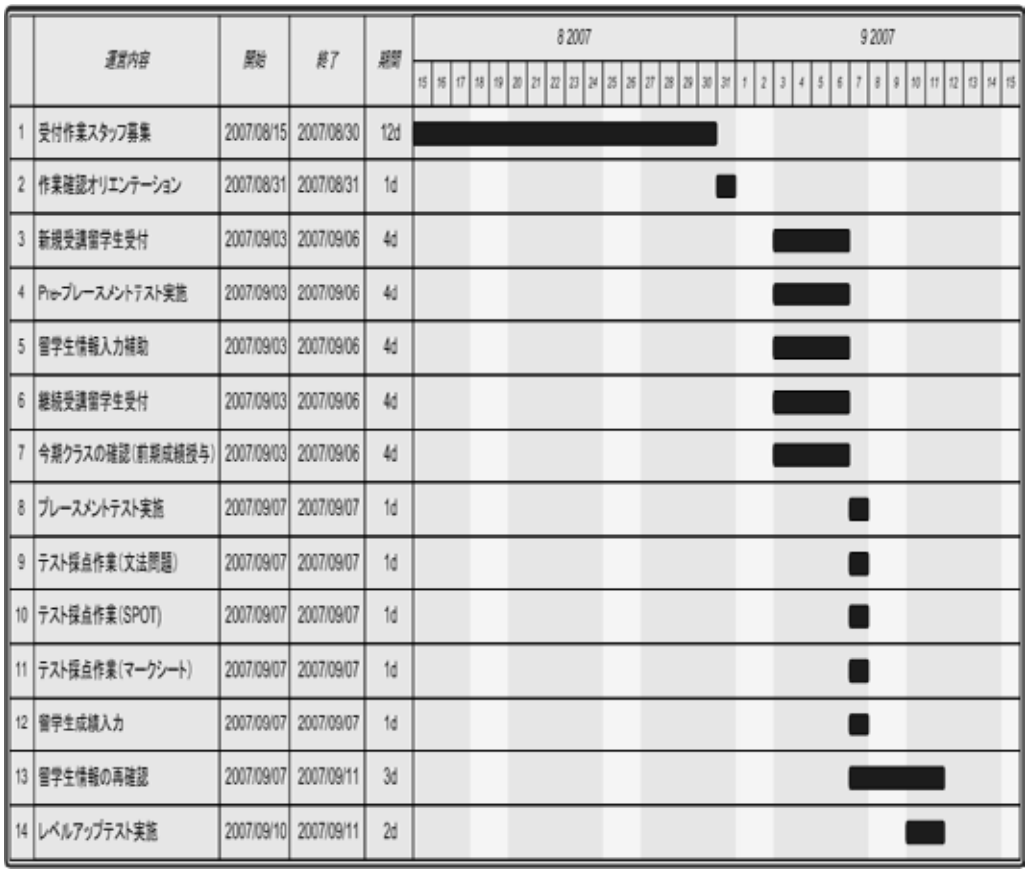

図 1　2007 年度 2 学期日本語補講授業受講手続き運営スケジュール

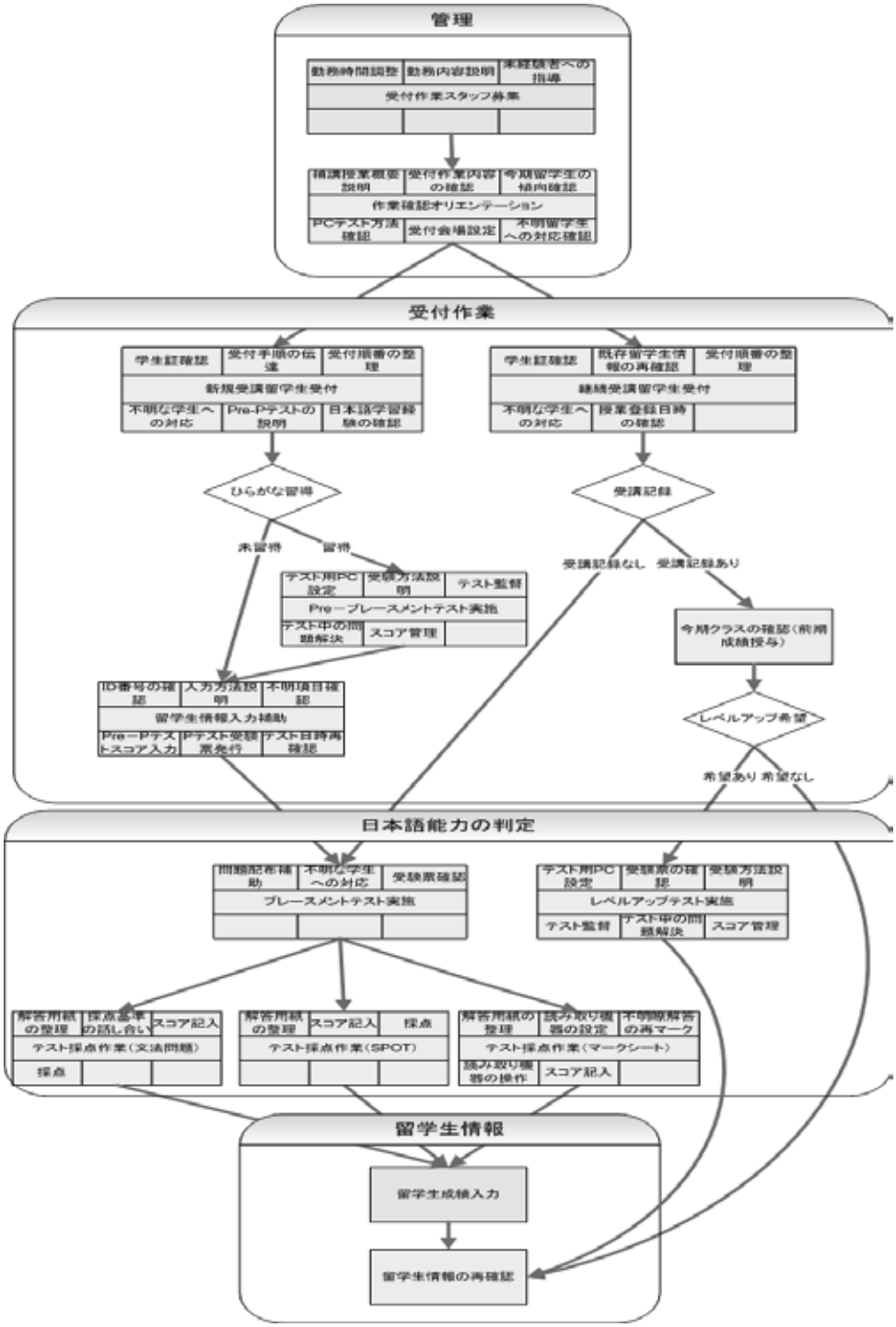

図２　2007 年度２学期日本語補講授業受講手続きの運営内容

実際の受講手続き期間は、2学期初週の9月3日～6日までの4日間であり、図中の1～2の運営内容は受講手続き開始以前の調整や作業確認、3～7は受講手続きの主な作業、8～11は新規受講留学生を対象としたプレースメントテストに関する作業、12～13は留学生情報に関する作業、14は継続受講留学生を対象としたレベルアップテストに関する作業である。

またこれらの運営内容の具体的な作業をパートチャート（PART chart）として図2に表した。各作業内容は図1の運営内容と対応しており、管理、受付作業、日本語能力の判定、留学生情報、と手続きの過程を順を追って示している。また各運営内容の周辺には、担当する作業内容の詳細が記されている。このように作業は長期的かつ複雑なものとなっており、スタッフは受講受付開始前に行われる「作業確認オリエンテーション」にてこれらの作業内容を確認することが重要となる。このような複雑な作業においては、初めて受付作業に関わる場合や作業内容に変更点があった場合に、円滑な運営が難しい点が課題であるといえる。図2に示した各作業を工程別にまとめると、以下の通りとなる。

〈受付作業スタッフ募集〉〈作業確認オリエンテーション〉

受講受付の会場では、上記の通り複数の作業が同時に行われるため、毎回5名ほどのスタッフが必要となる。受付期間の約2週間前からスタッフの勤務日程を調整し、受付実施期間の前に、日本語指導教員、今期プレースメントテストに関わるスタッフ、留学生センター事務の三者による作業確認オリエンテーションが設けられる。オリエンテーションでの確認内容は以下の通りである。

・留学生センター日本語補講授業コースの概要
・今期の留学生の情報、傾向、受講人数
・受付作業内容の確認
・パソコンを用いたPre-プレースメントテスト、レベルアップテストの受験方法、機器設定の確認
・所属、前回受講レベルがわからない等の不明点がある学生への対処
・受付会場の設営

〈新規受講留学生受付〉〈Pre-プレースメントテスト実施〉〈留学生情報入力補助〉

新規受講留学生の手続きは、プレースメントテスト受験手続きと、学生管理のための留学生情報の入力の大きく2つの作業に別れる。まずプレースメントテスト受験にあたり、別室でPre-プレースメントテストを受験する（約10分間）。このPre-プレースメントテストの結果より、後日行われるプレースメントテストで配布される問題の難易度が決定される。Pre-プレースメントテストはコンピューター画面による選択式のテストであり、実施に際しテスト監督者が必要となる。

留学生情報の入力は、受付会場にてスタッフの補助を受けながら、学生自身が自らの個人情報をパソコンに入力する。入力時には各留学生に関する詳細な情報が必要となるが、自分のID番号を覚えていない、指導教官の所属がわからないなど様々な問題が生じ、一連の受付作業のうち最も時間を要する作業となる。

〈継続受講留学生受付〉〈今期クラスの確認（前期成績授与）〉〈レベルアップテスト実施〉

すでに留学生センターでの日本語補講授業に出席しており、次学期も継続して受講する場合も、同会場にて継続受講手続きを行う。受付で次学期のクラスを確認したうえ、J500レベル（中級前期）以上でレベルアップを希望する場合は、日本語指導教員の許可のもと「レベルアップテスト」を受験することができる。レベルアップテストを受験した場合、そのテスト結果よりJ500の場合はJ600に、J600の場合はJ700にレベルアップすることができる。レベルアップテストは受付期間ではなく後日に実施され、Pre-プレースメントテストと同様に、監督者のもとコンピューター試験にて行われる。

〈プレースメントテスト実施〉〈テスト採点作業（文法問題）（SPOT）（マークシート）〉

プレースメントテストは受講手続き期間終了後、別日に実施される（約2時間）。問題形式は毎年改良が重ねられており、個別に採点を行う作文問題と文法、SPOT、マークシート問題の4つの形式をとる。試験終了後は約6時間で200部近くの採点作業にあたるため、それぞれの作業を同時に進行させ、作業を分担して行うことが重要となる。特にマークシート読み取り作業では、受験者のマークミスにより読み取りが困難な場合もあり、マークシートを読み取る前の訂正作業に時間を要している。

〈留学生成績記入〉〈留学生情報の再確認〉

一連の運営内容の最後に受講手続きに来た留学生情報を確認し、各テスト受講者の成績を入力する。ここでID番号と氏名を再確認し、番号の重複がないか照らし合わせる。

4.　運営内容の検討

4.1　分析方法

次にこれらの複雑な運営内容の現状を把握し改善点を見出すため、受付作業を運営するスタッフ、また手続きに訪れる留学生にとって、どの過程が最も重要と捉えられているか分析を行った。現在のところ、受付作業に関わるスタッフ全員が作業の全体像を把握することは難しく、具体的にどの作業に重点を置いて効率化を目指してゆくべきか、判断し難い状態となっている。そこでこれらの複雑化した運営の改善点を探り、円滑に進めていく手がかりを得るため、2007年度2学期の日本語補講授業受講手続きのケースをもとに作

業内容を検討した。

分析方法には、トーマス .L. サーティ（Saaty,1980）によって提唱された AHP（Analytic Hierarchy Process ＝階層分析法）を用いた。AHP は不確定な状況や多様な評価基準で有効な意思決定手法として、問題分析の様々な場面で利用されている。AHP の特徴は意思決定を階層的な構造として捉える点にあり、異種の問題要素を一対比較して判定し、客観的数値として表現しにくいとされる、主観的要素を含んだ問題の分析を進めることができる。本研究では、日本語補講指導に携わる教師の意見を含め、受講手続きに関わった主要スタッフ３名、実際に新規・継続両者の受講手続きを経験したことがある留学生３名により各作業の重要度を判定した。判定では、問題間の心理的強度を１－９の尺度で一対比較し、幾何平均でまとめ基準化してウェイト（重要度）を算出した。

4. 2　結果

結果は以下の通りである（表 2)。最もウェイト（重要度）が高かったのは「新規受講留学生受付」20%、「継続受講留学生受付」18%（計 38%）であり、留学生と直接コミュニケーションをとる、受付作業の第一段階が重要とされていることが明らかになった。

表２　2007 年度２学期日本語補講授業受講手続きの運営内容の重要性

	作業環境オリエンテーション	受付作業スタッフ募集	留学生情報の再確認	留学生情報入力	新規受講留学生受付	プレースメントテスト実施	留学生情報入力補助	継続受講留学生受付	レベルアップテスト実施	今期クラスの確認（前期成績照合）	プレースメントテスト実施	テスト時与作業（文法問題）	テスト、採点作業へ（マークシート）	テスト採点作業（SPOT）	幾何平均	ウェイト
作業環境オリエンテーション	1	3	7	7	3	1/3	5	1/3	7	7	7	3	3	7	3.022	0.14
受付作業スタッフ募集	1/3	1	5	7	1/5	1/3	1/5	1/3	3	7	5	1/5	1/3	3	0.970	0.04
留学生情報の再確認	1/7	1/5	1	3	1/7	1/5	1/5	1/7	1/3	3	1/5	1/7	1/7	1/5	0.304	0.01
留学生情報入力	1/7	1/7	1/3	1	1/7	1/5	1/7	1/7	1/5	1/3	1/5	1/7	1/7	1/5	0.204	0.01
新規受講留学生受付	1/3	5	7	7	1	3	5	5	7	3	7	3	5	5	4.350	0.20
プレースメントテスト実施	3	3	5	5	1/5	1	1/3	1/3	3	7	5	3	3	5	1.979	0.09
留学生情報入力補助	1/5	5	5	7	1/5	3	1	1/3	5	7	7	5	5	7	2.462	0.11
継続受講留学生受付	3	5	7	7	1/5	5	3	1	7	7	7	5	5	5	3.872	0.18
レベルアップテスト実施	1/7	1/3	3	5	1/7	1/3	1/5	1/7	1	3	3	1/7	1/7	1/5	0.481	0.02
今期クラスの確認（前期成績照合）	1/7	1/7	1/3	3	1/9	1/7	1/7	1/7	1/3	1	1/3	1/5	1/7	1/3	0.262	0.01
プレースメントテスト実施	1/7	1/5	5	5	1/7	1/5	1/7	1/7	1/3	3	1	1/5	1/5	1/5	0.406	0.02
テスト採点作業（文法問題）	1/3	5	7	7	1/5	1/3	1/5	1/5	7	5	5	1	1/3	7	1.378	0.06
テスト採点作業（マークシート）	1/3	3	7	7	1/5	1/3	1/5	1/5	7	7	5	3	1	7	1.592	0.07
テスト採点作業（SPOT）	1/7	1/3	5	5	1/9	1/5	1/7	1/9	5	3	5	1/7	1/7	1	0.592	0.03
														計	21.921	1.00

特に新規受講留学生受付作業に関する内容は、「留学生情報入力補助」11％、「Pre-プレースメントテスト実施」9％と合わせ、全体で40％のウェイトを占めており、最も重要であることが示されている。継続受講留学生受付の場合は「今期クラスの確認（前期成績授与）」1％を含め、計19％となった。テスト採点作業では「テスト採点作業（マークシート）」が7％、「テスト採点作業（文法問題）」が6％、「テスト採点作業（SPOT）」が3％となっており、合わせて16％の重要度が表れた。また一連の受講手続きが始まる前に行われる「作業確認オリエンテーション」も14％とウェイトが高かった。運営の基盤となる「受付スタッフの募集」4％と合わせると、作業前の段階で18％のウェイトとなった。「プレースメントテスト実施」2％、「レベルアップテスト実施」2％、「留学生情報の再確認」1％、「留学生成績入力」1％はそれぞれわずかであり、運営内容のなかでは比較的固定的な作業であることが読み取れた。

5.　考察

以上の結果より日本語補講授業受講手続きの運営内容では、留学生と直接接する「新規・継続受講留学生受付」が計38％を占め、14の運営内容のなかで最も重要度の高い作業であることが明らかになった。受付作業は、手続きに来る留学生と一番はじめに接する作業であり、短い時間で様々な留学生に対応しなければならない、手続きの手順を分かりやすく伝えなければならないなど、一連の受講手続きの円滑さを左右する作業となる。そのため運営内容の中でも重要度が高い作業であると評価されたことにより、作業の必要性が再確認されたと考えられる。

また新規受講留学生・継続受講留学生という手続き内容の違いを比較すると、新規受講留学生に関する受付作業の方が重要度の高い作業であることが明らかになった（40％）。この点に関し、岡崎他（2006）は、新規受講留学生の手続きにオンライン化を導入して授業登録運営・学生管理を円滑に進めることを提案し、年々増加の一途を辿る受講者数や、受講者の留学形態の多様化にどのように対処していくべきかを論じている。岡崎はこれまで受講の申し込みや受講者情報の管理、プレースメントテストの実施に関わる手続き、成績管理作業等の日本語コースの運営や受講者情報の管理に関わる諸作業を一人ひとり手作業で処理してきたが、これら一連の作業を2005年よりオンライン化し、運営・管理を円滑に進めた事例を示した。しかし作業の効率化に焦点が当てられる反面、オンライン化による弊害については未だ述べられていない課題となっている。

今回の分析においては、一連の受講手続きのうち最も重要とされた運営内容が「受付作業」であり、個々の留学生への直接的な対応が、受講手続きにおいて欠くことのできない内容であることが示された。特に留学形態の多様化に伴い、留学生の身分、学習環境も様々な形をとっており、留学生の多様化への対処はこれからも検討される必要がある。オンラ

イン化により受講者数増加への対策がなされるなか、電子的な項目内容に当てはまらない学生にも丁寧に対応していくことは、より良い日本語教育機関を目指す一歩となると考えられる。

また同様の問題はプレースメントテストの諸手続きにも示された(計16%)。筑波プレースメントテストは長年にわたり開発・改良が加えられ（酒井,2007)、留学生の日本語能力が多角的に判断されるテスト内容となっている。問題の解答は大きく、作文、活用等を記入する文法問題、ひらがな一文字を記入して答えるSPOT（小林,2007)、またマークシートリーダーを用いて採点を行うマークシート問題の4つの形態がある。そのため採点作業にもかなりの時間を要し、受講者数の増加は作業に大きな負担をもたらしている。プレースメントテスト実施について述べた小山（1997)、小脇他（1998）も、受験者の増加に伴う採点、成績管理の負担について、同様に課題点を残している。

また今回の分析においては、採点作業の中でもマークシート読み込みの重要度が7%であり、他の採点作業に比べわずかに高い割合を占めている。マークシートでの採点に関しては、松瀬（2002）もプレースメントテストでのマークカード導入を取り上げ、導入による採点処理の短縮化、試験の一本化へ向けて改善を試みている。しかし実際の採点作業の中では、マークシート読み取りにあたり、番号の確認やマーク不明瞭部分の塗りなおし、機器設定という諸作業が必要であるため、効率化よりもスタッフの負担が大きいとしてウェイトの高いものとなった。多数の留学生の成績情報を管理する場合にマークシートを用いて効率化を図ることができるが､国や文化を反映してマーク行為自体が成り立たない、という日本語教育ならではの問題点も無視できないといえる。

このように日本語補講授業受講手続きの運営過程を分析した結果、全体として「受付作業」「採点作業」という大きく2点が重要であることが明らかになった。受講手続きを運営していく上で、具体的にどの運営内容が重要だとされているのか把握することは、今後の作業の効率化にもつながると考えられる。そのため今後はウェイトの低かった作業を中心に、作業内容の固定化、分かりやすさを目標にしながら、効率化を進めていくことが提案できる。また効率化のみを視野に入れて受講手続きを運営していくのではなく、多様化する留学生に親身に対処していくことも、日本語教育の基盤となる運営面で大切であることが示された。多数の留学生への対応は、受講手続きからプレースメントテスト成績管理にわたり大きな課題点であったことが再認識され、今後の作業改善の指標として考えていくことが望まれている。

6. おわりに

大学における留学生センター等大規模な日本語教育の場では、その指導以外に、どのように学生情報を管理し、コースを運営していくかが非常に大きな課題点となる。今回分析

した日本語補講授業受講手続き、プレースメントテストの運営内容では、大きく受付作業、特に新規受講留学生に関する作業、プレースメントテストの採点作業が重要であるとされ、今後の運営改善の指標となった。

これまで効率化を意識しながらも、作業内容の重み付けが不明確であり、どの作業内容がどのように関わりを持っているのかという関係性が明示されなかった。そのため今回の分析をもとに作業のプロセスを見直し、重要視された運営内容には更なる工夫を施してゆければと考える。

参考文献

岡崎智己・大神智春（2006）「留学生のための日本語コース（JLC）における受講・成績管理システムのオンライン化」『九州大学留学生センター紀要』15号：117-123

小林典子（2007）「音声メカニズムを利用した日本語能力測定―SPOT開発の経緯―」『大学における日本語教育の構築と展開　大坪一夫教授古稀記念論文集』：277-296

小山悟（1997）「平成8年度前期プレースメントに関する考察」『九州大学留学生センター紀要』8号：169-176

小脇光男・松瀬成子（1998）「プレースメントテストの改善に向けて（1）―現行プレースメントテストの検討を中心に―」『熊本大学留学生センター紀要』2号：89-101

酒井たか子（2007）「中規模テストとしてのプレースメント再考―筑波プレースメントテストの開発と課題―」『大学における日本語教育の構築と展開　大坪一夫教授古稀記念論文集』：263-276

筑波大学留学生センター（2007）「2007（平成19）年度日本語コース概要」『2007筑波大学留学生センター』：8-9

松瀬成子（2002）「プレースメントテストの改善に向けて（2）―マークカードの採用とその後の試み―」『熊本大学留学生センター紀要』6号：79-88

Saaty, T. L.（1980）*The Analytic Hierarchy Process*, McGraw-Hill